

富士駅北口周辺地区 復興まちづくり訓練 ニュース

第4号
平成27年11月発行

富士駅北口周辺地区で、第4回復興まちづくり訓練を行いました！

第4回目となる復興まちづくり訓練を10月8日（木）に開催し、復興まちづくりの専門家である常葉大学の池田浩敬教授による進行のもと、第3回目に検討した商店街の復興像の実現に向けて、必要なこと、事前に出来ることについて検討し、意見交換を行いました。

これまでの検討経緯

第1回から第3回までの復興まちづくり訓練の検討経緯について振り返ります。

第1回（6月25日）

第1回の訓練では、復興まちづくり訓練の概要説明のほか、気仙沼市で東日本大震災を経験された眞山氏から、主に自宅避難の体験をお話いただきました。

グループワークでは、震災後の商店街について、仮設商店街をつくるかどうか、仮設商店街の店舗数等について意見交換をしました。



第2回（8月6日）

第2回の訓練では、仮設住宅団地及び仮設商店街の計画について、模型を使いながら検討しました。仮設住宅団地では、入居者の優先順位や住宅の配置について、仮設商店街では入居店舗の構成や仮設商店街の配置について意見交換をしました。



第3回（9月10日）

第3回の訓練では、商店街の活性化事例を紹介し、それらを参考にしながら商店街の復興像について検討しました。富士本町商店街の資源の洗い出し、ターゲットとなる利用者層を踏まえた商店街のコンセプト、復興後の商店街の立地等について意見交換をしました。



商店街の復興像を考える（第3回の続き）

第3回で検討した商店街の復興像について確認及び補足をし、発表を実施しました。また、商店街の復興を実現するために必要な事、事前にできることについて意見交換を行いました。

※第3回の結果をもとに意見交換を実施するため、前回と同じくAとCの2グループに分かれ、意見交換を行いました。



検討結果は内面です

A グループ



▶商店街の復興像の検討

商店街の売り

- ・富士山の景観
- ・地元の名産品
- ・JR 富士駅に近い立地

主にターゲットとする利用者層

- ・商店街を広く利用してもらうため、ターゲットを絞らない

商店街づくりに向けたコンセプト

- ・ **駐車場**を確保した商店街づくり（車で利用しやすい）
- ・ **富士山を眺望**できる商店街づくり
- ・ 商店街の話題性を高めるために、**目玉をつくる**
- ・ **安全に利用できる**商店街づくり（商店街内の車両通行を排除する）
- ・ **会話を楽しめる**商店街づくり

▶コンセプト実現に向けた土地利用、まちづくりのアイデア

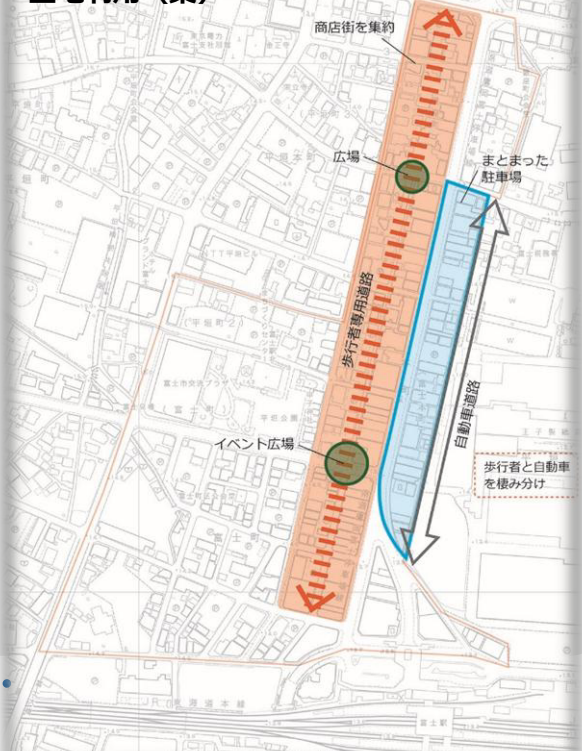
まちづくりに向けた土地利用の考え方

- ・ 駅のそばに富士山のビューポイント
- ・ まとまった駐車場を屋上に
- ・ ブロック別にターゲット層を分ける
- ・ 商店街を縮小。一部は別の利用とする

まちづくりのアイデア

- ・ 客と店員のコミュニケーション
- ・ 特徴ある店舗が必要
- ・ リピーターが来るような飲食の充実
- ・ 港や他の商店街との連携

土地利用（案）



商店街の復興像実現のために必要な事・事前のできる事

- ・ 建物に関するルール作り
- ・ 被災地の商店街とのつながり
- ・ 復興後のビジョンをある程度考えておく
- ・ アーケードとり壊しに向けて補助金等の可能性を検討
- ・ まちづくり会社の設立
- ・ 震災後の考えをある程度把握しておく
- ・ 後継者の確保等、商店街の延命が必要

C グループ



▶ 商店街の復興像の検討

商店街の売り

- ・レトロ感のある建物
- ・富士山
- ・堀の水
- ・神社と鳥居の復活（昔あった鳥居）
- ・歴史、言い伝え
- ・商店街ごとの交流

主にターゲットとする利用者層

- ・観光：外国人、観光客
- ・レトロ：中高齢者
- ・新たな文化：若者

商店街づくりに向けたコンセプト

- ・地域の歴史や文化を活かした商店街づくり
- ・外国人や富士山の観光客を集客し、賑わいを形成する商店街づくり
- ・富士山の眺望を活かし、湧水などを取り入れた空間を演出する

▶ コンセプト実現に向けた土地利用、まちづくりのアイデア

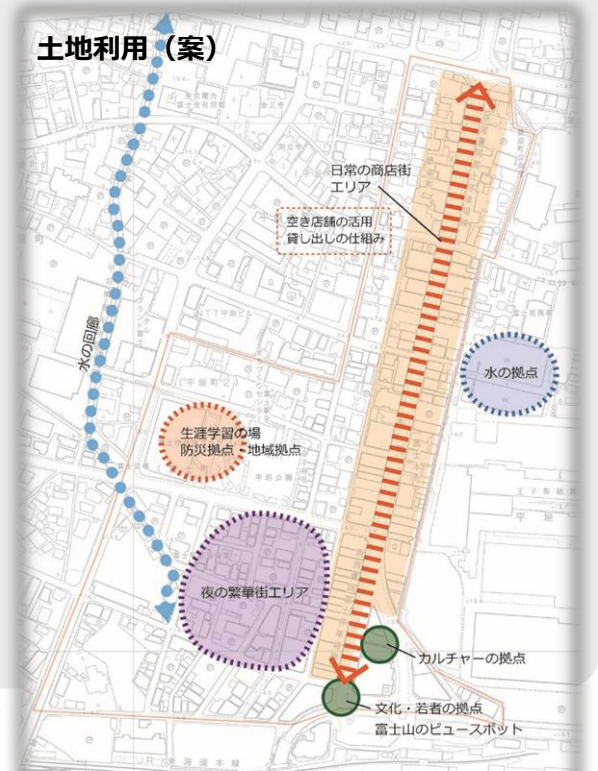
まちづくりに向けた土地利用の考え方

- ・飲み屋街とその他の棲み分け
- ・一部道路の拡幅、公園の配置
- ・新富士駅との連絡

まちづくりのアイデア

- ・映画館、劇場を復活
- ・ゲームセンターなど娯楽施設
- ・図書館 子どもの憩いの場

土地利用（案）



商店街の復興像実現のために必要な事・事前にできる事

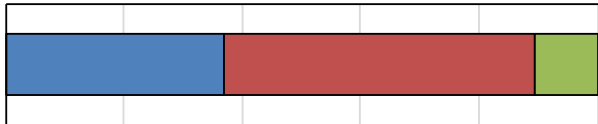
- 女性・若者の活用
 - ・自主防災組織に若者・女性を入れるための工夫
 - ・女性視点での防災対策
- 地元で働く人
 - ・働く場所をつくる
- 空き店舗対策
 - ・新しい店舗や活用方法を受け入れる土壌
⇒情報を共有できる仕組みづくり
 - ・空き店舗対策のしくみ（体制）づくり
- 防災対策
 - ・消防団育成（若者、女性）、講習会の回数を増やす

事後アンケート結果

グループワーク終了後、事後アンケートの回答にご協力いただきました。アンケート結果の一部を紹介いたします。

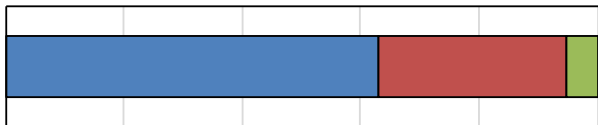
①復興まちづくり訓練に参加したことで、「まちづくり・防災・復興」に対する意識変化があったか。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



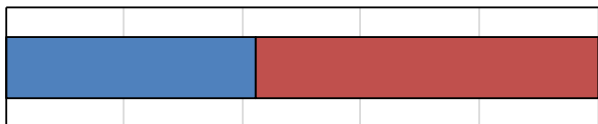
②震災が起こる前に、震災後の復興まちづくりに関して関係者の合意形成しておくことは重要だと思う。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



③震災が起こる前に、地区の復興まちづくりを考える組織を立ち上げておくことは非常に重要だと思う。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 大変そう思う ■ そう思う
■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない
■ 全くそう思わない □ 未回答

参加者からの意見・感想等（一部抜粋）

- ・事前にやることを多く挙げられたこと、また街の店主との意見交換がよかった。
- ・まちづくり・防災・復興を自分のこととして考えるようになった。
- ・地域の人との意識共有ができた。
- ・自分の考え方だけでなく、人の意見、見方、考え方を知ることができた。
- ・一番の問題は空き店舗対策だと思うが、その対策がいまだに答えが出されていない。

常葉大学 社会環境学部 池田浩敬教授からの総評

復興まちづくり訓練は、南海トラフの巨大地震など発生が懸念される震災に備え、地域が被災を乗り越え復興を果たしていくための力を養うために行ったものです。訓練では①地域において想定される被害を理解する、②過去の事例なども参考にして復興のプロセスを理解する、③被災後のまちの復興像について話し合う、④復興を実現するために必要なこと、事前に出来ることを話し合う、といったことを行いました。

議論の過程では、女性や若者の活用、地域で情報を共有できる仕組づくり、まちづくり会社の設立が必要といった様々なアイデアが出されました。また、終了後のアンケート調査からは「まちづくり・防災・復興を自分のこととして考えるようになった」「震災が起こる前に、地区の復興まちづくりを考える組織を立ち上げておくことは重要だ」といった参加者の意識の変化も読み取れました。こうした変化自体が今回の訓練の大きな成果ではないかと思っています。



復興まちづくり訓練の内容等については、富士市ウェブサイトでも公開しています。

『富士市復興まちづくり訓練』で検索してください。

<事務局>

富士市 都市整備部 都市計画課 都市政策担当

TEL : 0545-55-2786

メール : toshikei@div.city.fuji.shizuoka.jp